

国語科学習指導案

第1学年3組 令和3年11月12日(金) 第6校時(1年3組教室) 指導者: 郷 健蔵

研究テーマ

「考え、かかわり、学びをつなぐ力をもった児童の育成」
～ 思考を深める「振り返り」＝「ひとり学び」の充実(3年次) ～

考え、かかわり、学びをつなぐ授業の創造

- (1) かかわりの目的や、思考の視点の明確化
- (2) 学びをつなぎ、高める指導の工夫(発問、指示、問い返し、学習モデルや条件の提示、スキル)
- (3) 思考を深め、可視化する、効果的な思考ツールやICTの活用
- (4) 多様なかかわりをつくる学習形態の工夫(個別・ペア・グループ・全体)

<思考を深める「振り返り＝ひとり学び」の充実について>

◎ステップ1 振り返り場面の時間保障とツール選択を意図的に設定する。

・小さい振り返り:深い 振り返り

◎ステップ2 振り返りの視点を提示する(各教科の見方・考え方の育成を軸にして)。

- A. この学習で大切だと思ったこと。
- B. この学習を通してできるようになったこと。
- C. 課題を解決するために試行錯誤したこと。
- D. 参考となった友だちの発言や助言。
- E. 何をきっかけにしてねらいを達成したのか。
- F. 工夫しようとしたが、十分ではなかったこと。
- G. この学習で今後の学習や生活に生かせそうなこと。
- H. もっと考えてみたいこと、新たに疑問に思ったこと。

◎ステップ3 振り返りの質の充実を図る。

1. 単元名

お気に入りの のりもので のりものせつめいカードを つくって、みんなに 見てもらおう
(教材: じどう車くらべ 光村図書 こくご一下)

2. 単元の目標

◎のりものせつめいカードを作るために、図鑑や教材の文章の中の重要な語や文を考えて選り出すことができる。

【思考力、判断力、表現力 (読(1)ウ)】

○調べた乗り物の説明が明確になるように、事柄の順序に沿った文章を書くことができる。

【思考力、判断力、表現力 B書(1)イ】

○教材文と図鑑の文章から、共通、相違の情報と情報との関係について理解することができる。

【知識及び技能 (2)ア】

○教材文や図鑑を読んで乗り物説明カードをつくることを楽しみ、自分の感想を伝えあおうとする態度を養おうとしている。

【主体的に学びに向かう態度】

3. 単元について

<教材観>

教材文「じどう車くらべ」は、「問い→答え→答え→答え」という簡単な列挙型説明文である。「どなしごとをするのか」、そのために「どなつくりになっているのか」というように、問いが二つあるため、二つの段落に分けて書かれている簡単な構成である。教材文で「そのために」という言葉に注目し、「しごと」と「つくり」の関係性をはっきりと捉えることができるようになることで、図鑑のように分けて記述されていない文章からでも情報を取り出すことができるようになると思う。

<児童観>

本学級には読書に対して好意的な児童が多い。既習の「うみのかくれんぼ」では、三つの海の生き物の隠れ方と体のつくりを分けて読み、音読して覚えるほどであった。また、文末表現に着目することで、動物の隠れ方を見つけることができることに気付き、まとめる作業を楽しむ様子も見られた。逆に、読書に好意的でない児童もいる。朝の読書の時間にどの本を読みたいのか、自分で決められない児童が1名いる。また、「うみのかくれんぼ」において、隠れ方と体のつくりの関係性を読み取る際に、答えがどの部分なのかを見つけることができない児童がいた。

<指導観>

本単元では、図鑑を読んでお気に入りの乗り物について調べ、「のりものせつめいカード」として説明する文章を書く言語活動を行う。これは、乗り物の図鑑を読み、乗り物の「しごと」とそれに応じた「つくり」を見つけ、せつめいカードに書いて発表したり、図書室に置いて全校児童に見てもらったりするものである。

第一次では、指導者が作成した「のりものせつめいカード」のモデルを提示することで、「このカードを図書室に置いてもらってみんなに見てもらおう」という学習課題をつかむことができるようにする。

第二次前半では、教材文の「バスや乗用車」「トラック」「クレーン車」の「しごと」「つくり」の違いや関連を明確にしながら読んでいく。その際、違いが分かりやすいように乗り物ごとに書きこむワークシートを使用する。それぞれの乗り物の「しごと」と「つくり」を色分けして線を引き、分けた通りにワークシートの表に整理することで、見つけたことを文章化しやすくする。また、「そのために」という言葉が「しごと」と「つくり」を関連付けることに気付けるようにする。

第二次中盤に、全員同じ図鑑を使い、「しごと」と「つくり」を選ぶ練習をする。図鑑には、学習モデルで使用した乗り物を使う。「しごと」を見つけるためには、選んだ文の末尾に「～するしごとです。」とつけることで、意味が通るかどうかを確認するとよいことを全員で見つける。選んだ後に学習モデルと比較することで、「しごと」と「つくり」を選び出せると、カードができることに気付かせる。

第二次後半では、図鑑から児童が選んだ乗り物のカードを作っていく。まずは、前時までに学習したことを思い出しながら、図鑑に「しごと」と「つくり」に色分けした線を引く。引いた線をワークシートに文章化する。ワークシートに書かれた段階で、「しごと」と「つくり」が関連づいているかを、振り返りの中で三段階ほど項目をつくり、確認させたい。その後、ワークシートに書かれたことをもとにカードを作る。

第三次では、児童の作成したカードを発表し合う。友だちが作ったカードで、「しごと」と「つくり」に分けられているかを読んだり、どのような感想・振り返りを書いたかを聞いたりして、単元の学習を振り返る機会にしていきたい。

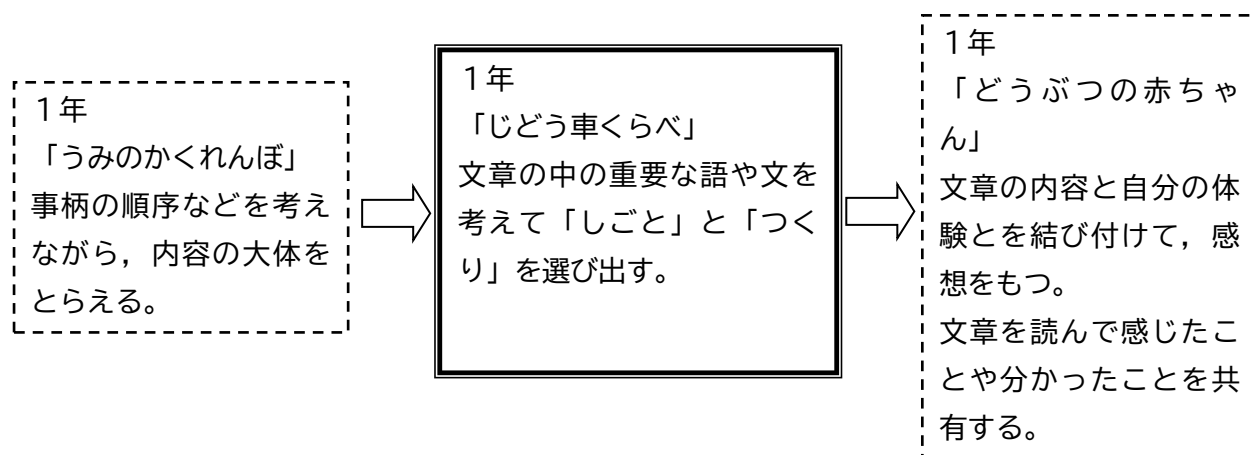
4. 研究テーマとの関わり ～思考を深める「振り返り」＝「ひとり学び」の充実（3年次）～

それぞれの読みの場面においては、「しごと」「つくり」を捉えることができたかや、「しごと」と「つくり」が関連づいているかを児童自身が評価できるようにしたい。また、単元においてはまとめの段階で自分や友だちのカードでつきたい力を意識できたかどうかを振り返ることができるようにしたい。

5. 評価規準

知識・技能	思考・表現・判断	主体的に学びに向かう態度
<ul style="list-style-type: none"> ・のりものせつめいカードの文における主語と述語の関係に気付いている。(1)カ ・図鑑の文章の共通、相違の情報と情報との関係について理解している。(2)ア 	<ul style="list-style-type: none"> ・のりものせつめいカードを作るために、図鑑や教材の文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。C(1)ウ ・調べた乗り物に対していいなと思ったことが明確になるように、事柄の順序に沿った文章を書いている。B(1)イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材文や図鑑を読んだのりものせつめいカードを作ることを楽しみ、自分の感想を伝えあおうとする態度を養おうとしている。

6. 単元の系統性



7. 指導と評価の計画（評価は省略）

	時間	学習活動【学習内容】	評価規準（評価方法）
「構造と内容の把握」	1	○学習モデルの確認，学習の見通しをもつ ○本文の音読 ○学習課題を知り，学習計画を立てる。	主好きな乗り物についての情報を話し合ったり教材文を読んだりしながら，これからの活動の見通しを持つとしている。（発言）
	2 3 4	○「じどう車くらべ」を読み，バスやじょうよう車の「種類」「しごと」「つくり」を見つけ，ワークシートに書きこむ。 ○「じどう車くらべ」を読み，トラックの「種類」「しごと」「つくり」を見つけ，ワークシートに書きこむ。 ○問いに対する答えが，「しごと」には1つ，「つくり」には2つあることをおさえ，クレーン車の「種類」「しごと」「つくり」を見つけ，ワークシートに書きこむ。	思判表 ・のりものせつめいカードを作るために，教材文の中のバスやじょうよう車，トラック，クレーン車の「種類」「しごと」「つくり」について重要な語や文を考えて選び出している。（ワークシートへの記述）
「精査・解釈」	5	○学習モデルで使用した図鑑を使用し，「しごと」「つくり」を選び出すために，どのような言葉や文に注目するとよいかを探す。	知技 図鑑の文章の共通，相違の情報と情報との関係について理解している。（ワークシートへの書き込み）
	6	○学習モデル・ワークシートをもとに，図鑑から自分のお気に入りの乗り物を選ぶ。	
	7 本時	○選んだ乗り物の図鑑から，「しごと」「つくり」に色分けした線をひき，ワークシートに分類して書く。	思判表 のりものせつめいカードを作るために，自分が選んだ乗り物の「種類」「しごと」「つくり」について重要な語や文を考えて選び出している。（図鑑・ワークシートへの記述）
	8	○前時のワークシートをもとに，のりものせつめいカードを作成する。	知技 図鑑の文章の共通の情報と情報との関係について理解している。（図鑑への書き込み）

「考えの形成」「共有」 第三次	9	○作ったカードを、同じ乗り物、違う乗り物で発表し合う。	主 教材文や図鑑を読んで乗り物の良さを考えることを楽しみ、自分の感想を伝えあおうとする態度を養おうとしている。
	10	○自分のカードや、友だちの発表を聞いたことから、単元の振り返りをする。	

8. 本時の目標

○自分の選んだ乗り物の図鑑から、のりものせつめいカードの「しごと」と「つくり」を選び出すことができる。【読C(1)ウ】

9. 本時の展開(7/10)

過程	子どもの意識の連続性	学習活動	教師のはたらきかけ (評価規準・方法)
5分	<ul style="list-style-type: none"> ・乗り物の「しごと」「つくり」を見つけた。 ・「しごと」を表すところは、「～しごとをしています。」と書いてある。 ・「しごと」と「つくり」は、「そのために」という言葉で繋がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時までを振り返る。 ○本時の目標を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">えらんだのりものから、「しごと」と「つくり」を見つけよう。</div>	
10分	<ul style="list-style-type: none"> ・文の終わりに、「～するしごと」とつけるとしっくりくる。 ・ペアの人の考えは自分と同じだろうか。 ・「しごと」と「つくり」の関係が合っていない。 ・「そのために」に繋がると意味がでてくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○図鑑を読み、選んだ乗り物の「しごと」「つくり」を見つけ、線で色分けをする。 ○見つけた「しごと」と「つくり」が、「そのために」で繋がるかどうか注意する。 ○ペアの友だちと、色分けしたところを確認する。 	思判表 のりものせつめいカードを作るために、選んだ乗り物の「種類」「しごと」「つくり」について重要な語や文を考えて選び出している。(図鑑・ワークシートへの記述)
20分	<ul style="list-style-type: none"> ・選んだ部分を文に直す。 ・読んだ人に分かりやすい文かどうか、見直してみる。 	○選んだ乗り物の「しごと」「つくり」をワークシートに分類して書く。	
10分	<ul style="list-style-type: none"> ・どの言葉に注目して「しごと」を選んだか。 ・「しごと」と「つくり」が、「そのために」で繋がるか。 ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ○振り返りをする。 ・できた度合いを自己評価し、項目から選ぶ。 ・自分の出来たことを記述する。 <ul style="list-style-type: none"> ○振り返ったことを発表し、共有する。 	

10. 板書計画

